

いさかばい

No. 66

令和6年1月号

発行／(公社)周南市シルバー人材センター 山口県周南市桜木三丁目 1-3 ☎ 0834-25-6262 編集／広報等編集委員会 印刷／大村印刷



周南市大字須々万本郷312番地

新年のご挨拶



天翔ける年に (遠石八幡宮大絵馬)

新年あけましておめでとうございませう。皆様方には輝かしい新春をお迎えのことと謹んでお喜び申し上げます。

当センターの運営につきましては、厳しい環境の中ながら、皆様方の温かいご理解とご支援のもと順調に推移しております。さて昨年は、WBCでの侍ジャパン3度目の優勝に始まり、バスケットボールやラグビーW杯での日本代表チームの活躍、大リーグ大谷翔平選手の自身2度目となるMVP受賞など、スポーツ界での明るい話題に沸いた一年であったように思います。

設立20周年 さらなる飛躍を 理事長 大田 良充



一方国外においては、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻、イスラエルとイスラム組織ハマスの戦争の長期化など、暗い話題も後を絶ちませんでした。こうした中、昨年は周南市誕生20周年の節目の年であり、その翌年発足した当周南市シルバー人材センターも今年に設立20周年の記念の年となります。これまで周南市とともに着実に歩んでいくことができたことを喜ばしく思っています。

さて、近年の労働市場は、全体的に景況感が回復、有効求人倍率は前年の1.5倍前後を推移し、引き続き企業が人を求めている状況にあることから、労働力確保は労働政策の喫緊の課題となっております。

また人手不足分野は多岐に渡っていることから、シルバー人材センターに対する期待感が高まっています。今までも

の「シルバーの仕事」というイメージ以外の仕事の依頼をいただくことも増えてきました。会員の皆様にとっては仕事の選択肢が増え、僅かながらも就業しやすい環境づくりが実現できたものと考えています。

も緊急性と重要性が最も高いのが会員数の減少です。平成21年をピークに会員数は減少の一途を辿り、15年近く経った今も解決の糸口すら見出せていません。65歳までの高齢者雇用確保措置に加え、70歳までの就業確保措置が努力義務ながら令和3年4月より施行されたことが大きな要因といえますが、いずれにしても会員数の減少を食い止めることが必要です。

一方、国民生活におけるデジタル活用は急速に進展しており、シルバー人材センターにとってもその対応は重要な課題となっております。当センターとしても今年にはデジタル化の定着に向けた取組を推進して参ります。また、対応すべき課題の中で

今後とも発注者様や地域の方々のご理解とご協力のもと、地域社会に信頼され貢献するセンター作りに努めて参りますので、一層のご支援をお願いして年頭のご挨拶といたします。

よろしく
お願いします

理事長	大田 良充
理事	田川 八州
常務理事	大宮 重達
兼事務局長	入部 藤谷
理事	加河 神水
	友光 清田
	村田 中田
	渡田 新員
監事	重悦 敏 陸 圭 頭 敏 一
事務局	職

未来につながる 一年に

周南市長 藤井 律子



新年あけましておめでとうございませう。公益社団法人周南市シルバー人材センターの皆さまにおかれましては、希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。また、平素より、市政運営に

格別のご理解とご支援をいただいておりますことに、厚くお礼申し上げます。さて、少子高齢化が急速に進展し、労働力人口の減少が進行する中、健康で働く意欲のある高齢者が生涯現役として活躍できる場の創出が社会全体で求め

られています。こうした中、周南市シルバー人材センターにおかれましては、基本理念「自主・自立・共働・共助」のもと、強い志と、正しい行動力を持って、地域社会の担い手として活力ある高齢社会の構築に貢献されておられますことを大変心強く思っております。

市といたしましては、地域経済への影響を最小限に食い止めるために、皆さまと一緒にこの難局を全力で乗り越えてまいりたいと考えております。今後とも、市政への変わらぬご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

『次なる10年』に 向けて 周南市議会議長 長嶺 敏昭



新年あけましておめでとうございませう。公益社団法人周南市シルバー人材センターの皆様方におかれましては、希望に満ちた清々しい新春をお迎えのことと、謹んでお慶び申し上げます。さて、本市は昨年4月21日に、

誕生20周年という記念すべき年を迎え、記念行事が各所で開催されたところであります。私は、合併から20年という年月を重ねる中、このまちが確実に成長していく姿を見てまいりました。しかし、大きな可能性が見える反面、人口減少など、

特に中山間地域では活力の低下など想定以上の課題があるように感じました。私たち市民は、これらの現状を仕方のない事象と捉えることなく、『次なる10年』に向けて知恵を絞り行動することが求められているのではないのでしょうか。そうした中、地域社会に根差した皆様方のこれまでの豊富な知識と経験は、高齢者が生涯現役で活躍できる社会づくりの実に現に寄与いただけるものと期待

しております。私も市議会といたしましても、皆様方が活力ある健康長寿社会構築に向けて活躍できる環境づくりをバックアップしてまいる所存でございますので、本年も変わらぬご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。結びに、貴センター並びに会員の皆様にとりまして、笑顔溢れ健やかに活躍されますことを心よりご祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

行事満載の忙しい秋でした



4年ぶり 会員親睦旅行 海と山の絶景に歓声

例年秋の一大行事・会員親睦旅行は、しばらくコロナ禍のため見合わせになっていましたが、ようやく昨秋、4年ぶりに開催されました。

久しぶりとあって、たちまち定員80人に達し、好天に恵まれた10月15日、バス2台に分乗して、早朝、一路山陰・長門方面



元乃隅神社のシンボル・朱塗りの鳥居の列

に出発。「いきがい」編集担当者も取材を兼ね、一緒に楽しませていただきました。

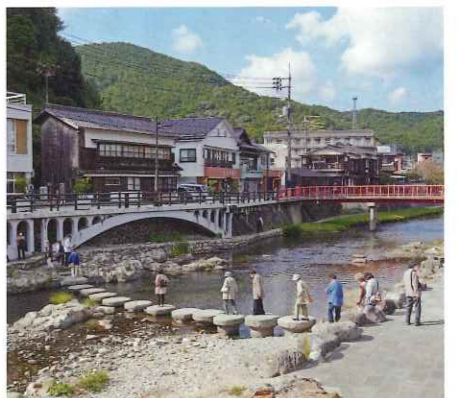
バスはまずなにをさておき4年間おあずけとなっていた世界の絶景・長門市の元乃隅神社へ。立ち並ぶ朱塗りの鳥居と青い海と空の絶景に歓声が上がっていました。お願い事をするにも鳥居の上の賽銭箱に投げ入れるのはなかなか大変です。

お昼は日本海の海の幸を堪能して、午後は一新された湯本温泉街を散策。その後、宇部市の小野茶畑を見学しました。

広大な緑一色の日常にはない景色に、「初めて来ました」、「こんなところが山口県にもあったんですね」との声も。

途中、サービスエリアや道の駅など、行く先々で荷物が増えていくのもいつもの光景です。会員同士の交流の機会が少なくなっていました。道中、バスの中では、久しぶりのにぎやかな会話が弾み、大いに親睦が深まったようです。

「いきがい」編集部担当者も取材を兼ね、一緒に楽しませていただきました。



湯本温泉の音信川あたりを散策

さてさて、今年はどこにいきましょうか。ここに行ってみようというリクエストがありましたらぜひお寄せください。

なお、今回の参加者の方から紀行文をお寄せいただいたので、P6の「みんなの広場」で紹介させていただきます。

こちららもぜひご一読ください。



茶畑の前で記念撮影しました

感謝の気持ちで ボランティア清掃

地域貢献活動の一環として、毎年秋から冬に行われているボランティア清掃。今回も多くの会員の皆様の参加により、各地域で開催されています。

11月21日の鹿野地区に始まり、12月3日は富田・福川地区、12月8日に本部、また12月21日には和田地区で。

富田・福川地区ではともに町の顔でもある駅前周辺の清掃に汗を流しました。本部の岐山通りの清掃では、市のシンボルロ



ゴミのない町に (福川地区)

ードとあって多くの方からご苦勞様、の声をいただき、イチヨウの葉を掃く手にも力が入ります。皆様、お疲れ様でした。

なお、1月には熊毛地区と戸田地区でも予定されています。



岐山通りは装いも新たに

抜き打ちで実施しました 安全パトロール

安全第一の意識向上を目的に、毎年秋に行っている安全パトロール。今回は県と合同で実施した本部を除く南陽、熊毛、鹿野の3地区では草刈り作業を中心に、予告なしの抜き打ちで実施しました。

各現場では作業状況や機械装備、体調管理等について確認や聞き取りなどでチェック。結果は概ね良好でしたが、一部防護ネットの未使用や看板の未設置もありました。

また定期的な草刈り講習を、などの提言もあり、引き続き協議・改善を進め安全の確保に努めます。

なお最近、安全装具の不使用を主因とする重篤な事故も発生していますので、作業をする皆さんは各自で、また互いに注意し合い、一層の安全確保をお願いします。



まずは安全確認 (鹿野地区で)

いきいきレディースサロン ベジチェックで健康診断

6月の南陽地区に引き続き、11月30日、熊毛地区を対象にゆめプラザ熊毛で「いきいきレディースサロン」が開催されました。

今回のテーマはベジチェック(野菜摂取量チェック)や血管年齢チェックによる健康診断。年齢より若いですよ、との判定に一安心の笑顔が…。今回のもう一つのテーマは地域班長さんや未就業の会員も交えての懇談会。日ごろ思っていることや感じていることに話の花が咲き、地域の関わりはますます深くなったようです。



数値が出るまでちょっとドキドキ

防災をテーマに女性の集い 「いざ」という時の備えを

去る9月27日、徳山保健センターで、また10月19日は新南陽ふれあいセンターで多くの方が参加して「女性の集い」が開かれました。

市の防災アドバイザーの方を講師にテーマは「家庭・地域でできる身近な防災」。日ごろの備えや持ち出し袋の確認

などのお話に耳を傾けました。巨大地震に備える持ち出し袋は身を守るグッズだけを厳選し、男性15kg、女性10kgが目安とか。

過去の災害の例などから日ごろの備えの大切さを再認識しました。



いざという時、慌てないように

四年ぶりの会員親睦旅行

三浦育雄



コロナ禍で鬱積していた折、センターから八十名限定の会員親睦旅行のお知らせがあり早々に申し込んだ。10月15日、午前8時過ぎ、桜木の本部前で一号車のバスに乗り込む。

コースは元乃隅神社、竜宮の潮吹き、海鮮村センザキツチン、湯本温泉街散策、小野茶畑見学だ。元乃隅神社の駐車場で二号車のバスと合流する。竜宮の潮吹きへの道を降りて、直進すると竜宮だが波穏やかで潮吹きは望めなかったが日本の眺望に慰められた。それから元乃隅神社へ向う。百二十三本の朱の鳥居の中の長い石段を登る。

皆さんお強い、軽やかな足運びだ。日頃の不摂生か息が上りフーハーと喘ぎつつ登り詰める。そこが人気スポットの大鳥居、高さが6位あるだろうか、その大鳥居の中央に賽銭箱が掛

けてあり、それに目掛けて賽銭玉を投げ込むのだが、これが容易には入ってくれない。ある豊饒とされたお方が挑戦されていたが、スイッチが入ったのか白い首筋から頬へと紅がサット走る。手の平を一、二度上下させ力強く振り放った。賽銭玉が高く宙に舞い、孤を描きつつスーッと落ちて箱に吸い込まれる。チャリリン！ 周囲で歓声が湧き起こる。「お見事」渾身の一投だ。

私など老イルシヨックで投げ上げる力もなく、下に取り付けられた貧弱な簡易賽銭箱へ放り込むとカチンと音がした。

この雄姿のお方は、確か理事長さんでした。「何事も全力で、且つ真剣に事にあたれ」と受け賜りました。久方振りに会う会員さん達との会話、湯の里をぞろ歩き、畝の連なる広大な茶畑見学と、今日一日を充分に堪能した。さあ明日から又センターで元気に働かせて戴こうと：閑かに小野茶をすするのでした。こんな楽しい旅行をセツティングして戴き、本当に有難うございました。



もう6時

藤井俊右



朝は遅く夕暮れは早い。あれだけ暑かった日差しが急に涼しくなった。剪定や夏の残りの草刈りを毎日ではないが頼まれたら週2・3日は行っている。朝は7時から昼まで、午後は4時ぐらいまで、自分のペースで仕事をしているとはいえ一応計画を立て自分が思った期日までに終了するようにしている。「秋の日はつるべ落とし」とか、日暮れが早い、日が傾くと

すぐに暗くなる。平地はそうでもないが山間に行くとなつという間だ。道具の片づけ、忘れ物はないか、人数が多いといいのだが一人の時はそれなりに気を使う。明日もあるという時はそれでもないが、ここは今日で終了というと特に注意をし持ち物を点検する。気持ちにゆとりがあると綺麗な夕焼け小焼けに心を癒される。「よし明日も」とファイトがわく。帰宅して道具を片付けると「もう6時」：「耄碌爺」にならぬようひと風呂浴びて湯割りを一杯、極楽極楽：すっかりと生きていこう。

「飛龍八幡宮」

社伝によると、後光厳(ごこうごん)天皇(在位1352-1371年)の時代、この地の岩に京都男山(おとこやま)の石清水(いわしみず)八幡宮から龍に似た光体が飛来したことにより、飛龍八幡宮が創建されたと言われています。高さ34m、枝の繁る様子が丸い玉のようであることから大玉杉と呼ばれる巨大な杉があることでも有名です。

みんな

の広場

山口県在住16年

北原 信彦



私は九州で生まれ育った。私が始めて徳山を訪れたのは親戚の家に遊びに来た中学校の時だった。中学卒業後、縁あって徳山の学校で5年間過ごすことになった。

九州の平野と違い、青い海と緑深い山々は新鮮で、徳山の駅周辺は賑わっていた。銀南街など、映画館、デパート、レコード店等、何でもそろっていたと思う。休日ともなれば歩行者天国で交通渋滞だった。学生後半は車の免許を取って活動範囲も広がりが桜吹雪舞う錦帯橋や夏みかんが茂る萩などに出かけた。

この頃の趣味はオーディオでFMのエアチェックや学園祭でのPAミキサーなど青春を謳歌したものだ。卒業後は東京の音響メーカーに就職したが、配属先は映像関連の部署だった。その後転職し、IT関連会社に務めたが、二〇一一年の東日本大震災後、徳山に住む身内の都

第九に魅せられて

門司宏子



合で、ロンドンオリンピックの年に夫婦二人で越して来た。徳山の再就職は前のスキルを活かしきれなかったが、電気や通信の仕事をする会社に務めることができた。時折帰省はしていたが、山口県の様変わりを感じた。特に道路は立派だ。還暦の年に造園関係に足を踏み入れ、昨年シルバー人材センターの会員になった。こちらに来て十一年、観光パンフレットに載っている名所といわれる所にはほとんど行ったし、道の駅も制覇した。昨年の都道府県魅力ランキングを見て驚いた。私は最下位の県に生まれ、関東エリア45位の県でいる。現在43位の山口県に住んでいる。これも何かの縁なのだろうが、「どこの県にも、いっぱい良いところがあるよ」と言いたい。

シルバーとのかかわりは、退職後、比較的早い頃に始まりました。センターでのパソコン教

室や「女性の集い」、「防災対策講座」等の半日のイベントには参加できているのですが、研修旅行等には参加できていません。その理由の一つに、「周南冬の第九合唱会」があります。約30年前、同市の周陽中の生徒らが第九の合唱をして当時のツリーまつりでも披露していたことがきっかけとなり企画されました。最初に「第九」コンサートを文化会館で開催した時は、オーケストラを思わせるエレクターン演奏での合唱団でした。その時は事務局担当で歌ってはいませんでした。ただ舞台袖で聴いているだけでした。二〇二三年は、12月23日の「ツリーまつり」で吹奏楽団との共演、また12月29日の山口市での「ウクライナ交響楽団」の公演での合唱団に参加するための、それぞれの団体での毎月2回の「第九・歓喜の歌」の合唱練習で、大忙しです。実際に歌の練習に参加して想像以上に「第九」は難しい！と実感。ある部分は口(くち)パクで誤魔化しちゃってます。合唱に興味のある方のご参加をお待ちしています。

第3回衛生委員会

体を動かせば脳も動く

11月16日の「第3回衛生委員会」のテーマは「健康だより」に掲載する「認知症の予防につながる生活習慣」について。今のところ、認知症を100%

予防できる方法はありませんが認知症には、いくつかの危険因子があり、中でも生活習慣病になると認知症になりやすいと言われています。

生活習慣病の予防は認知症予防でもあり、ウォーキングなどの有酸素運動や趣味活動も効果的で、即ち「体を動かすことは脳を動かすこと」なのです。また、耳や眼が悪いと家族や周りの人とのコミュニケーションが取りにくくなり、認知症が進むことがあります。

シルバーの活動は、仕事仲間がいるということ認知機能の改善に有効です。

詳しくは、同封の「健康だより」をご覧ください。



事務局短信

TANSHIN

配分金等(配分金+交通費)の確定申告について

シルバー人材センター会員の配分金については、交通費を含めた額が所得税法上雑所得となります。この配分金等は、他の所得とは別にして原則55万円まで控除されます。

センターから会員の方に、令和5年分の配分金等支払証明書を1月中旬頃送付しますので、下記の「所得税の計算例」を参考にして、申告が必要な方は確定申告を行ってください。

(注) 配分金等と年金以外の収入(給与収入や農業収入など)がある方は、税務署にご相談ください。

所得税の計算例

○収入が配分金等のみの会員

$$〔\text{配分金等} - \text{配分金控除}(55\text{万円}) - \text{基礎控除}(48\text{万円}) - \text{その他の所得控除}〕 \times \text{所得税率} = \text{所得税額}$$

○収入が配分金等と公的年金のみの会員

$$〔\text{配分金等} - \text{配分金控除}(55\text{万円}) + \text{公的年金} - \text{公的年金等控除} - \text{基礎控除}(48\text{万円}) - \text{その他の所得控除}〕 \times \text{所得税率} = \text{所得税額}$$

※②の金額が400万円以下で、かつ①の金額が20万円以下の場合には税務署への確定申告は不要です。(市町村への申告は必要です。) なお、所得税の還付を受けるための申告書の提出は、税務署へ提出することができます。

新任挨拶



本部
林 孝至

9月から本部でお世話になっております。初めは戸惑うこともありましたが、周りの方々のサポートにより、少しずつ日々の業務をこなすことができきました。まだ至らないところもあるかと思いますが、皆様のお役に立てるよう努力して参りますので、よろしくお願ひします。

お知らせ

ボランティア清掃

戸田地区 1月31日(水)
熊毛地区 1月12日(金)

JR 駅周辺

安全推進大会

日時 2月28日(水) 10時〜
場所 保健センター

地区懇談会

富田地区 令和6年2月5日(月)
11時30分 南陽支部
福川地区 令和6年2月11日(日)
11時30分 福川会館

全国に取り組みを紹介

全国シルバー人材センター事

街角スケッチ



卯から辰へ (湯野・楞巖寺)

編集後記

甲辰は力強さ、成功の象徴といわれています。私たちシニア世代も辰年にあやかり、まず健康、仕事・趣味を楽しめる幸せな一年でありますように！

業協会の機関誌「月刊シルバー人材センター」の11月号で、当センターの「障害者が就労する企業農園での野菜づくり指導」の取り組みが全国で紹介されています。冊子は各事務所にありますので、ぜひ一読ください。**センターからのショートメール**について

メールの冒頭「周南市SCです。」のSCは、シルバー人材センターの略です。詐欺メールではありませんのでご安心ください。また、このメールには返信できません。